

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

オックスファム・ジャパン

地域の皆さんとともに

『オックスファム・トレイルウォーカー』を開催



↑小田原市城山陸上競技場をスタート ©SOUZOU DOU

オックスファムは一九四二年にイギリスのオックスフォードで設立され、世界一〇〇カ国以上で活動する国際協力団体です。世界一六の国・地域に拠点を置き、貧困を克服しようとする人びとを支援し、貧困を生み出す状況を変えるために活動しています。オックスファム・ジャパンは二〇〇三年に設立され、アドボカシー（政策提言）・キャンペーン、長期開発支援、緊急人道支援、国内啓発事業を通して、貧困のない世界の実現を目指しています。

オックスファム・ジャパンは、毎年八〇〇名近い参加者を神奈川、静岡、山梨の山中に送り込み、『オックスファム・トレイル



↑37カ国から集まった参加者たち ©SOUZOU DOU

ウォーカー』というウォーキングイベントを開催しています。山歩きといえは楽しそうですねですが、実態はかなりハードなイベントです。四人一チームで昼夜を問わず山の中を歩くトレイルウォーカー。参加者の皆さんには一〇〇kmを歩くという試練だけでなく、参加資格として寄付金を集めるというハードルも設けられています。それでもリーダーが多い…

何故でしょうか？

それはこのイベントの特徴にあります。実はこのイベント、参加者とほぼ同じ人数の地元の皆さんのご協力を得て始めて成り

(特活) オックスファム・ジャパン

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル2F
e-mail : oxfaminfo@oxfam.jp URL : www.oxfam.jp

TEL 03-3834-1556 FAX 03-3834-1025

立つ、という仕組みになっています。だからこそ生まれるユニークなローカル色、おもてなし、そして参加者の皆さんの気付き。歴史豊かで水にも恵まれているこの地域では美味しいお米（御殿場コシヒカリ）も採られ、そのお米を使ったおにぎりや地元野菜をふんだんに使った豚汁や焼きそばが休憩ポイントで振舞われます。乾いた喉を潤してくれる足柄茶。沿道では園児が旗を振って出迎えてくれます。これで参加者の疲れも一気に吹き飛びます。また参加者が夜道に迷わないように並べられた灯籠や、手書きの看板がみんなを誘導してくれると同時に勇気付けてくれます。

チームワーク、全員参加、そして大きな変化を生み出すというこのトレイルウォーカーはまさにオックスファムの活動を凝縮させたようなイベントです。

まずチームワーク。参加者は互いを励ましあいながら100kmを踏破することに挑み、ボランティアは長時間にわたりみんなで協力して参加者をサポートします。オックスファムの途上国支援では現地のパート



↑地元産のお米を使った炊き出し
©Oxfam Japan



↑毎年ご協力くださる地元ボランティアの皆さん
©SOUZOU DOU

て思いました。…貧困の国、情勢の不安定な国ではこういう私達が当たり前と生きている生活もできないですもんね。」と

ナー団体や、コミュニティの人びとと共に課題に取り組みます。

そして全員参加。トレイルウォーカーではどんな人にも参加の場があります。アスリートでなくても完歩できるし、誰でもボランティアスタッフとして活躍の場がありますし、時間が取れない人は寄付をするという応援の方法もあります。オックスファムの活動においては現地のプロジェクトのみならず、先進国でのアドボカシーやキャンペーンで全員参加。

毎年イベントが終わると多くのコメントを頂戴しますが、過去の参加者の声で特に印象的だったものの中に、「何か、普通に「あつたかい布団で寝られること」とか「三度のご飯が食べられること」とかにすごく感謝の気持ちが生えてきました！トレイル中はぐっすり眠ることも、ご飯を食べることもまともにできなかったため、昨日とか、「ああ人間らしい生活してる…」って

思いました。…貧困の国、情勢の不安定な国ではこういう私達が当たり前と生きている生活もできないですもんね。」と

生み出すきっかけを作っています。みなさんと共に変化を生み出していく。それがオックスファムの活動です。

というのがありました。

トレイルウォーカーの参加者は、100kmを通して様々なことに気付きます。一緒に歩いたチームメイトのことや、チームをサポートしてくれた家族や友人、同僚のこと、そして前述のコメントのように途上国の現状に気付く人。トレイルウォーカーはそんな変化を生み出す第一歩といえます。

トレイルウォーカーは身近なところにも変化を起こしています。イベントで通過する地域の皆さんと共にトレイルを整備することで、より多くの人に山を楽しんでいただくことが可能になりました。また医療福祉を勉強している学生の皆さんは、実践の場としてこのイベントを捉えてくださっています。そして参加者の多くは、こんなに近くにすばらしい山や町があることに気が付き、さらに地域のことを詳しく知るようになります。そして途上国では、参加者の皆さんが集めた寄付金がさらに大きな変化を生み出す



↑地元の幼稚園児も応援
©Oxfam Japan

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

WE21 ジャパン リユース・リサイクルショップで 世界を感じる



↑リユース・リサイクルショップ「WEショップ」

「もったいない」を生かして

神奈川県内の三五の地域にリユース・リサイクルショップ「WEショップ」があります。WEショップでは、地域に暮らす市民から寄付してもらった中古の衣類や雑貨などを、地域のボランティアが中心となって販売し、その収益の一部を国内外のNGOに寄付しています。

WEショップは、イギリスの国際協力NGO「Oxfam」が運営するチャリティのリサイクルショップ「Oxfamショップ」を視察した女性たちが、Oxfamショップへの物品寄付とボランティアのしくみ、そして日本人の「もったいない」の精神を生かして、一九九八年に神奈川県厚木市に第一号店をオープンさせました。

その後、神奈川県内の三五の地域にWE21ジャパン地域NPOが誕生し、全部で五三店舗のWEショップを運営、物品寄付・ショップ運営・商品の購入者を合わせて、年間五〇万人以上の市民がこの活動に関わっています。

アジアをはじめ 世界二〇カ国以上に支援

WEショップでの販売収益の一部は、アジアをはじめ世界二〇カ国以上の女性たちを支援する民衆支援に充てられています。二〇〇八年度は、世界二四カ国に約二〇〇万円を支援することができました。これらのお金は途上国で支援活動を行う国内外のNGOを通して、例えば、アフガニスタンの小学校教師に向けた教員研修費約九八万円、インドの多目的教育センター設立費一四五万円、カンボジア・伝統織物研修費五〇万円などとして寄付しています。

WEショップの収益を通じて支援をすることで、支援が現地の人々にどのように生かされたのか、そもそもなぜ支援が必要なのかということも、途上国に貧困をもたらす世界のしくみの視点から、WEショップに関わる地域の人たちに情報を発信していく場にもなっています。

世界の貧困と私たちの暮らしの つながりを知る

世界では、人口の二〇%を占める最も豊

(特活) WE21 ジャパン

〒221-0052 横浜市神奈川区栄町11-5 栄町第2ビル 3F

TEL 045-440-0421

FAX 045-440-0440

e-mail : info@we21japan.org URL : http://www.we21japan.org/



↑貧困なくそうキャンペーン

など、世界を身近に感じ、支援先で起こっている出来事と私たちの暮らしとのつながりに思いを馳せる機会をつくっています。

かな人たちに、世界の富の八〇%が集中しているのに対して、最も貧しい世界の二〇%の人たちが世界の富の一・九%を分け合って生きています。世界の貧困は、先進国の私たちの暮らしや経済活動に深く関わっています。それを日常生活の中で感じることはほとんどありません。日本が輸入している多くの食料や資源が、その生産現場での環境破壊や人権侵害、児童労働などにつながっていることを写真やポスター、ニュースレターを通して伝えていきます。

毎年一〇月には、このような世界の貧困と日本との関わりについてより多くの人たちの関心を集めようと、一〇月一七日の世界貧困デーに合わせて「貧困なくそうキャンペーン」を開催しています。キャンペーンでは、WEシヨップの商品のお買い上げ金額全額が支援金になる、支援先であるカンボジアの保育園に通う子どもたちが普段食べている給食を試食する、アフガニスタンの女性が着る民族衣装ブルカを試着するなど、世界を身近に感じ、支援先で起こっている出来事と私たちの暮らしとのつながりに思いを馳せる機会をつくっています。

人と人が出会う場

WEシヨップは人と人が出会う場でもあります。地域の小・中学生の職場体験としてWEシヨップで世代の違う人たちと交流したり、障がいや心の病を持った人たちの自立支援の場にもなっています。地域の顔の見える人と人の関係を築き、助け合う地域社会をつくりたいと思っています。さらに、地域の市民が世界とつながり、外国籍市民と国を超えて交流できるコミュニティ・カフェなど、WEシヨップとは違った新たな拠点も生まれています。



↑コミュニティ・カフェ「みんな de Café」

自治体への要望

このように人々の出会いの場であるWEシヨップで環境、民衆支援、アドボカシーなどの活動を進めていると、さまざまな課題が見えてきます。例えば環境活動では、WEシヨップに寄付された衣類の約半分は販売できずに故繊維会社に寄付となり、販

売できなかつた雑貨は事業系のごみとして廃棄されていきます。こうした現状を多くの市民に知ってもらい、ごみを減らしていくためには、自治体や学校と協力してリユース・リサイクルの輪を広げることが望まれます。支援活動では、世界の途上国の現状を知ってもらうために開発教育のイベントを行います。教育委員会や自治体の後援や協力を得るのが難しいのが現状です。このようなイベントやキャンペーンなどの開催に、学校や自治体の社会教育分野と協働ができると、社会に与えるインパクトはもっと大きくなっていくと思います。

また、WEシヨップにはたくさんの方の外国籍市民が来店されます。神奈川県には二六三カ国約一七万五〇〇〇人（登録者数）の外国籍市民が住んでいます（二〇〇九年現在）。彼らは、教育、医療などさまざまな生活課題を抱えています。WE21ジャパンでは数年前に多文化共生の地域社会づくりのための調査と提言を行いました。就労条件の悪さ、入居差別などの住宅の問題、日本語を母国語としない子どもたちへの対応不足に起因する教育の問題、健康保険の未加入や通訳者不足に起因する医療の問題、年金などの社会保障の問題などは解決されないうままです。これらの課題は自治体が重要な役割を担っているため、NGOやNPOと協力しながら問題を解決していくことを望んでいます。